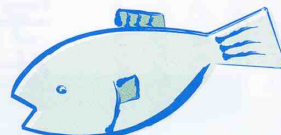


Compass

Vol.30



ほぶりちゃん

太陽がキラキラ輝くと、
海もますます
碧さを増していくね。
初めて海をのぞいた時のわくわく感。
ボランティアにもあるんだよ。
のぞいてみようか。
いろんなチャレンジが待ってるよ。

特集.1

「若い人たちのエネルギーを活動に!!」

～学生ボランティアについて考える～…………… 2～3

特集.2

「ボランティアグループ・市民活動団体、地域に

根ざした団体の運営方法を考えてみませんか!!」…………… 4～5

ほっとなボランティアグループ.1

「奈良で生まれた障害者カヌーは今年で15歳!」

障害者カヌー協会…………… 6

ほっとなボランティアグループ.2

「奈良から発信：コミュニティーラジオ」

NPO法人 ヤマト・ネット・クラブ…………… 7

ひと・まち・くらし

川上村ボランティアセンター…………… 8

情報アンテナ

ボランティアネットにアクセスしてみよう

助成制度、募集情報、イベント情報ほか…………… 9～11

ボランティアセンター こぼれ話

編集後記…………… 12

名前：ほぶりちゃん

意味：「ポプリ」はそれぞれ全く違う香りをもつハーブや香料を調合して詰めた瓶・壺です。それに同じくボランティア活動も雑多とした個々の個人的な活動の集まりと考えられないでしょうか？奈良県でのボランティア活動一つ一つが全体として調和され、住民個人や地域社会全体にとってポプリの芳香のように幸せをもたらすものであることを願って「ほぶり」と名付けました。

イメージ：ボランティア活動は、個人の自発的な意志に基づく独創的かつ自由な活動であることから、不定形であって、自発性・自由度を象徴する羽根を持ち、他者へのちょっとした好意を表すハートを灯した天使の姿をイメージしています。

学生ボランティアについて考える 「若い人たちのエネルギーを活動に!!」

近年、大学において学生のボランティア・市民活動への取り組みを促進するとともに、地域社会との連携・繋がりを模索する動きが見られます。

学生の主体的な活動を奨励・支援するため、学生ボランティアセンターや学生ボランティア支援室などのセクションを設置し、①学生ボランティア活動に関する情報収集・提供②学生向けプログラムの開発③活動の場の開拓④ボランティア養成講座等の開催などの支援を行った。大学が教育委員会と連携した教育現場への学生ボランティア派遣システムの構築や地域の団体等と連携した子どもの見守り活動、災害時に学生ボランティアを募ったの被災地支援活動や義援金募集を行うなどの取り組み

がなされるようになってきました。

大学としては、様々な社会経験を通して、学生一人ひとりの「人間」としての成長に力を入れていけると言えます。

若くエネルギーのある人材・専門性をもった人材を数多く集めたり、動かすことのできる大学ならではの特性は、今後地域にとって重要な社会資源となります。

また、若い人たちならではの、若い人たちだからこそできる活動は多種多様で、ボランティア活動の裾野を広げる多くの可能性を持っています。

そこで今号では、奈良教育大学助教授 玉村氏に「大学生へのメッセージ」として執筆いただきました。

情報収集
と
情報提供

活動原場
の
開拓

養成講座
等の
開催

プログラムの
開発

学生ボランティア活動を
奨励・支援するための取り組み

はじめに

学生ボランティア

ボランティアに全国的な注目が集まったのが、1995年阪神・淡路大震災での報道だった。その後も、ロシア・タンカーの重油流出と日本海岸の重油汚染へのボランティアの活動が続くことになった。阪神・淡路大震災では、延べ

150万人といふ多くのボランティアの力が集まった。そこで救援にあたったボランティアのうち40%は全国から集まった大学生であったといわれている。学生パワーが結集したといっているだろう。

一般に、ボランティア活動の条件として、自主的・自発的・自立的であることがよくいわれる。しかし、各種活動にボランティアとして参加する条件はどうかというと、なかなか困難がつきまとう。働く者にとって、参加の条件は

厳しく、参加するゆとりはなかなかないと言っても過言でない。一時期話題になったボランティア活動休暇制度は、一部の自治体で実施されているがなかなか広がりを見せていない。だからこそ、自主的・自発的・自立的に活動に参加し得る一定の条件を持っている学生さんの存在は貴重である。

とはいえ、現在の学生さん達の生活をみてみるとやはり余裕は少ない。大学での学業、アルバイト、若者らしくリフレッシュする時間も大切だろう。最近の経済格差の拡大や高学費の影響は、大学生の生活へも影を落としている。そんな中にボランティアの活動を位置づけることはなかなか容易なことではないようだ。ボランティアとして継続して活動している学生さんたちをみると、なにか気持ちの持ち方に重要なことがあるように思われる。

一つは、ボランティアのフィールドに関わること。

フィールドは、やはり福祉であったり、環境問題であったり、現代的な問題への関与という意義を潜めているものである。しかし、それは全面に出るわけではなく、そこで織りなされる人間の関係の広がりということが大切なことであると実感されているようだ。

いま一つは、ボランティアの内容と関わっている。

要するに、その内容は「お手伝い」「お世話」といふべきものではないだろうか。ボランティアは、一種の「お助けマン(ウーマン)」ともいえる。逆にいえば、それだけ肩肘張らなくてもいいというものはなからうか。ボランティアということで、個人に重い責任をかけられなくても困るし、「美談」扱いも困るというものだ。このような、気軽で、楽しく活動できるということも大切な要素のようである。

最近では、ボランティアなどの活動を支援することを目的とした学生企画活動支援事業などを行っている大学も多くなってきた。学生さん達の自主的で自発的で自立的な活動への期待がこめられている。このような学生企画活動支援事業などへの応募は、これまで活動してきたことを振り返りながら、日常的に行っていることの意義を考えてみる良い契機ともなるものと思う。

ボランティア活動はたくさんある。多様な人間と関わりたい、将来、福祉や教育に携わりたい、社会を見てみたいなどなど、いろいろな希望が学生さん達にはあるだろう。その学生さん

達が展開するボランティア活動に期待したいことは、多様な活動の中で、自分自身の感性で、得意技を発揮してほしいということ、問題を個人に留めずに、その背景にある社会を見つめてほしいということ、そして、それを契機として自分なりの切り口から学習を積んでほしいということだ。

ボランティアの募集の要請があるたびに、いまの若い学生さん達の心が動くような訴えをしてほしいし、したいと思っている。ボランティアは、単なるお手伝いではない、その人その人の感性を大切にして活動できるものであることを伝えたい。「ボランティアなんて関係ない」と思っている人たちにこそ訴えたい。君たちの発揮する力が、当事者たちの活動の幅を広げ、考えてみなかったような社会的に大きな波紋を形づくる可能性があるのだと。



ボランティアグループ・市民活動団体

『地域に根ざした団体の運営方法を

考えてみませんか!!』

2

特集

はじめに

「こんなまちにしたい」「こんな暮らしを送りたい」、そして、「自分らしくありたい」そんな想いを出発点として、わたしたちは暮らしの課題にどう向き合おうか。

一人ひとりの暮らしが大切にされる地域社会をつくるには、どうしたらよいかを考えながら、わたしたちは活動に取り組んできました。そんな想いを具体的な形にしていく上で、団体運営の課題や問題点もいろいろあります。

そこで、地域根ざした活動を展開していくための運営方法を考えてみませんか？



活動者の悩める思い

活動者、特にグループのリーダーは、グループ運営上で様々な悩みを抱きながら活動を行っています。その一部をちよっとご紹介します。

- 自分たちの活動が本当に地域に役立っているのだろうか
- メンバーの高齢化がすすんでいて、次の後継者がなかなか見つからない
- リーダーとしてあるべき姿とは
- 活動資金をどのように確保したらよいのだろうか
- 地域でのネットワークをどのようにすればつくれるのだろうか
- 有償活動って本当に必要なのだろうか、運営方法はどのようにしたらよいのだろうか

などなど

地域に根ざした団体の運営方法 教えます!

地域で実際に活動しているボランティア・市民活動者は、団体の運営についていろいろなことで悩んでおられます。いくつかの悩み解決のヒントを考えてみましょう。

あなたグループのできる限り、あなたグループのできる時間は？でも、その前に

地域にはあなたの支援を必要としている人が沢山暮らしています。

自分たちのグループは本当に地域に役立っているのだろうか。本当にあなたたちを必要としている人に必要とされている活動や時間が合っているのだろうか。自分たちのグループ活動に「おやっ」「あれ?」と思った時には、確認する場を持つことが大切です。

グループを立ち上げた時に、グループの目的や目標を決めているはずですが。一度立ち止まってそれらを見つめなおしてはいかがでしょうか。

活動者を集めるには

人は「なにになにしませんか」と言っても集まりません。

いろいろな所に情報をまいてご用聞きに回るスタンスが必要です。

まずは、自分たちの活動を知ってもらい、そこから始まります。待っていてもらは集まりません。

10人のうち1人でも知ってもらったら良いです。100人で10人、200人で20人になります。

例えば、こんな講座をしますよというチラシをまいて、自分がその講座の講師をする。この様な積み重ねが活動者を増やすことに繋がります。急がば回れと言っています。

この様な地道な取り組みが、実は人材養成とグループに必要な活動者集めにあり、ひいては後継者の発掘・育成に繋がります。

会員の能力を見極める

会員は皆それぞれ色々な能力を持っています。その能力を見極め活かすことが大切です。

グループを運営するにはどの様な人が必要かを考えることが必要です。

ヘルパーの資格だけではグループの運営はできません。事務が得意な人、会計

が得意な人、交渉が得意な人、運転が得意な人等、グループの運営には色々な能力を持った人が必要になります。

イベントや講座を開く時、どの様な人材が必要かを考えて、どの様にアプローチしていくかを考えるのも前述した活動者を集める時に役に立ちます。

活動資金は

活動資金はグループを継続させるための絶対条件の一つです。

どの様に資金を確保するかは、グループ出発前に考えることが大切です。

活動に必要な資金調達の主な種類としては、①会費②カンパ・寄付③利用料④バザー・物品販売⑤助成金⑥参加費⑦協賛金⑧物品提供⑨協賛広告、また、経費削減・節減なども大切です。

民間助成金に申請をし、助成金を活用して活動を展開するグループが年々増えてきています。また、福祉分野のみならず様々な分野・形態を対象にした民間助成金の数も増えていきます。しかし、せっかくいい企画であっても、事業の目的・内容・実施体制・資金使途等が不明確であっては助成金を獲得することは困難になります。助成団体をよく知り、申請をする前に申請に必要なコンセプトをよく確認しておくことが大切です。

また、有償活動も最近県内でも少しずつ増え始めています。活動資金が捻出できないから有償にという安易な考えではなく、団体の趣旨・目的等から考えて有償にふさわしいかどうかよく検討することも必要です。

ネットワークをつくろう

地域には様々な生活課題があります。地域の生活課題は一つのグループや団体だけでは解決できないことも沢山あります。

過去から連携・協働・ネットワークという言葉がありますが、実際にはなかなか他のグループ・団体と手を結ぶことができないというをよく聞きます。

連携・協働・ネットワークの第一歩は、お互いをまず知ることから始まります。同じ思いを持ったグループとの話し合いやボランティア連絡協議会加入団体同士で、日頃の悩みや課題を共有し課題解決に向けた新たな活動を考えていくことも大切なことです。

連携・協働・ネットワークの成果は、それぞれの団体が有している機能・知識・技術を有効に結びつけて課題に対応できることや、そこからまた新たな繋がりができたり、他の活動へ発展するなど、様々な相乗効果も生み出します。

社協
ボランティア
センターに
相談を!!

団体運営のポイントについていくつか述べましたがこれだけではありません。

安心して活動したい、活動の応援をしてほしい、活動上での悩みや相談をしたいことなどがあれば地元の社協ボランティアセンターや県総合ボランティアセンターに相談してみてもいいでしょう。

ボランティアセンターは、ボランティア活動希望者・ボランティア応援依頼者の相談対応、関係機関やボランティア団体等との連絡調整、様々な情報の提供などを行っています。ボランティアセンター以外にも活動を支援している機関もあります。

団体運営・活動を充実したものにするためにこの様な機関などを有効に活用してみたいかがでしょうか。

ホットな
ボランティア
グループ



奈良で生まれた
障害者カヌーは今年で15歳！

障害者カヌー協会

みなさんこんにちは。

障害者カヌー協会です。

今日は障害者カヌー協会の紹介をさせていただきます。

もう15年も前のことですが、ひとりの障害者がカヌーに乗ってみたいと言い出して、その職場の仲間やカヌーインストラクターが中心になって、障害者のためのカヌー講習会を開催しました。その講習会が開かれた場所が、奈良県五條市を流れる吉野川の栄山寺橋近くの河原でした。奈良は障害者カヌー発祥の地なんですね。

この講習会は「パラマウントチャレンジカヌー」と名づけられ、その名のとおりパラマウント(最高の)チャレンジをする場となりました。障害者カヌーでは「パラ」というとパラリンピックの「パラ」ではなく、パラマウントの「パラ」という意味で使っています。(以降、障害者カヌー講習会を「パラ」と表現します)

この講習会に参加したいろんな障害者が、もっと多くの仲間

にカヌーの楽しさを紹介したいと考え、92年から障害者自身が決めた。真剣に遊ぶ、危険に対する責任は自分で持つ、障害者イベントにありがちだった参加者を「お客さん」扱いすることをしない。などなど、健常者とか障害者とか言う関係なんかどこかへ吹っ飛ばしてしまおうような考え方でパラを実施。多くの障害者がカヌーを体験しました。パラには多くの仲間が集まり、その活動は全国から注目され、全国各地でパラが開催されるようになり、そんな中、最初に奈良でカヌーを体験した障害者が中心になり、障害者カヌーに乗るためのノウハウや全国各地のパラ関連の情報を集めて発信する場所を作ろうと考え、95年に「障害者カヌー協会」が発足しました。

結成宣言にはこんな文章があります。

『1991年、ここ奈良県五條市の吉野川で、初めて障害者がカヌーに乗った。その時、「障害者でもチャレンジできるんだ」という「可能性」、今まで一方的に健常者から与えられていたものとは違う「何か」を感じることができた。その感動、開放感、おもしろさをできるだけ多くの人に伝えたいと思った。つかんだ「可能性」を次につかみ取る人がいることを信じ、広げていきたいと思った。

そんな障害者と、その思いに共感した仲間と一緒に行動が始まった。その輪は、今までのように障害者と健常者、介護する側とされる側という関係ではなく、まるでチャレンジする心と心がよじれあうように、思いを編み上げながら大きくなっていった。そこには何かを楽しもうとする人たちが集まり、新しい人と人との出会いの場が生まれ、一人一人の個性が認められ生かされてきた。

一緒に遊ぼう。カヌーは自然との「遊び」だ。「遊び」は、誰にとっても生活の一部であっていいはずだ。もっと外にでて、みんなが住みやすい世の中にしよう。障害者だからという理由だけで「できない」「してはいけない」と排除されることがない社会を作ろう。だから、待っていないで行動して欲しい。人工物のない自然の川は、誰に対してもやさしいのだから。僕たちは走り始めた。後に続く新しい仲間を待っている。』

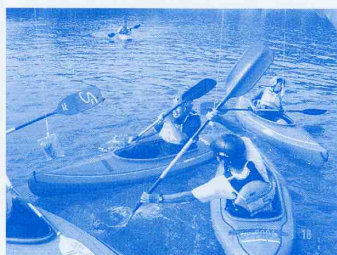
この思いは
今でもまったく変わっていません。

障害者カヌー発祥の地である吉野川では毎年「パラマウントチャレンジカヌー奈良実行委員会」がパラを開催しており、今年6月11日に初心者講習会を実施し、9月17日に水上運動会(パラ本大会)が予定されています。

また、障害者カヌー協会では、障害者のカヌー用補助具の試作や、全国向けの広報機関紙を発行しています。何かできそう？と思ったら、気軽に協会までメールをください。



プール教室の講師依頼にも対応



年に一度は、パン食い競争を!



川から見るパラの雰囲気

障害者カヌー協会

<http://www1.kcn.ne.jp/~paracha/>
paracha2006@kcn.jp

パラマウントチャレンジカヌー奈良実行委員会

<http://www.geocities.jp/narapara1991/>
narapara1991@yahoo.co.jp

ホットな
ボランティア
グループ



奈良から発信
コミュニティ・ネット・ラジオ局

NPO法人 ヤマト・ネット・クラブ

「ネットラジオ」って聞いたこと
ありますか？

まだまだご存知ない方も多いで
すが、パソコンでラジオが聞ける
んです。

私たち、NPO法人ヤマト・ネット・
クラブでは、ネットラジオを使って、
地域情報の発信を行っています。
たとえば、地域のイベント取材を
する「Topics A GO!GO!」
では、番組の制作をはじめ、室生
や大宇陀でのイベント企画にも
参加し、司会や音響までお手伝
いさせていただきました。



ただいま取材中

また、奈良で活躍するバンドを
紹介する番組「Made in
Music」。



掲示板の書き込みがきっかけでお邪魔しました!

奈良でがんばっている方をグエ
ストに迎える「奈良の情報宅急便」
など、さまざまな番組を企画制
作しています。

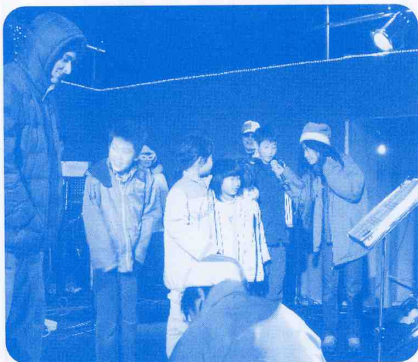
中でも人気がなのが、掲示板に書
き込みされたメッセージを紹介
する番組「VanVanVan
BBS」。

毎週放送後、すぐに番組の感想

や次回テーマについてのメッセー
ジが届きます。

そして、昨年夏には掲示板への
書き込みがきっかけで、大淀第
一小学校で行われた「まじっこ
の集い」の取材にお邪魔しまし
た。

統廃合が決まっている小学校で
の最後のイベントということで、
先生はじめPTAのみなさんや
子供たちが一生懸命がんばって
楽しんでる姿を、ネットラジ
オを通じて全国、全世界へと発
信できました。



ネットラジオは全世界へ発信

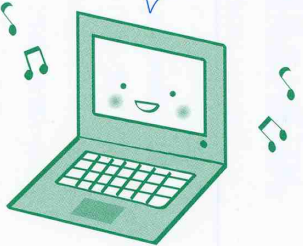
ネットラジオのよさは、パソコ
ンさえあれば、いつでもどこで
も誰でも楽しんでいただけるこ
と。

番組のリスナーの中には、東京
や九州、また、アメリカやオー
ストラリアで聞いてくださって
いる方もいらっしゃいます。

そんな世界とつながるネットラ
ジオを使って、情報発信した
方募集しています。

また、私たちはメンバー会費と
寄付金で活動しています。私た
ちの活動を支援していただける
企業、個人の方々、ご協力よろ
しくお願いします。

みなさんこんにちは!!
ヤマト・ネット・クラブです。



<http://ync.jp>

それでは早速アクセスして
ネットラジオをお楽しみください!!



「川上村ボランティアセンター」

川上村ボランティアセンターは、平成15年にオープンしてからあつという間に3年が経ちました。

以前から川上村はボランティア活動が活発で、住民の5人に1人が何らかの形でボランティアに携わっていました。

川上村社会福祉協議会では、これらの方々が安心して活動が出来るように、又高齢者の方々がごぞつて参加出来るやすいように(川上村は奈良県で1番の高齢化率である)ボランティアセンターを発足させました。

皆さんそれぞれの思いをもって活動され、村の玄関口の国道沿いには、季節に花を植えかえ、川上村に来られる方々の目を楽しませてくれています。高齢者の方々は官公庁周辺の草刈及び除草作業、中年層

は施設への歌や踊りの訪問活動。75歳以上独居高齢者・虚弱高齢者世帯への配食サービスは年8回、春はいたどり等山菜、秋はほつれん草・キャベツ、冬は白菜や大根など、ボランティアが自家製の野菜を持参し四季折々の食材を持参して朝から調理を行い、お昼には村内150名の方々に一斉にふれあいや安否確認も兼ねて配食します。ボランティアが尋ねるのを楽しみに待っていただいでいます。



官公庁周辺の草刈・除草作業

若いお母さん方は川上村立図書館を拠点に、月2回子育て中の親子を対象として絵本の読み聞かせを行っています。毎回10人以上の参加があります。



親子に贈る絵本の読み聞かせ



村内イベント「炊き出し」の訓練

また、近隣町村で同じ活動を行っているグループと、年1回「やまぶきホール」でイベントを開催するなど活発に活動を行い子育て支援の一環を担っています。

ボランティアセンターとボランティア連絡協議会は、互いに協力をしつつ活動を行っており、昨年度は阪神淡路大震災記念「人と防災未来館」への研修を実施しました。体験談を聞きスクリーンに映し出される崩壊する高速道路や町並みの様子を見、一瞬の出来事の恐ろしさを実感し、ボランティアの重要性を再認識しました。

村内のイベント(村民体育大会・山幸彦まつり)には炊き出しの訓練も行っています。いざというときに慌てないため、今後も毎年

炊き出し訓練を開催し、日頃から災害時に対応できる備えをボランティアや住民の方々と連携を図って行きたいと思っています。

ボランティアセンターは、住民の活動の拠点として気軽に皆さんにお越しいただき情報交換、交流の場、活動の場としてご利用いただいています。

ますます多様化する社会に、ボランティアセンターが住民のニーズを把握しボランティア活動につながるようにと願っています。



年に一回「やまぶきホール」でイベント

● お問い合わせ ●

川上村社会福祉協議会
川上村ボランティアセンター

〒639-3553
吉野郡川上村迫590-1
(川上総合センター内)
TEL 0746-52-0294
FAX 0746-52-0295

次のページも
情報いっぱい!



ボランティア活動に役立つ情報がいっぱい!

ボランティア 情報 アンテナ

助成制度

民間助成金

民間助成金とは、民間の財団法人や企業が、公益活動の一環としてボランティアグループ、NPO法人、社会福祉施設などが行う活動に対して助成を行うものです。助成の方法には、活動経費を助成する場合と、活動に要する現物を助成する場合があります。

県社協では、下記の民間助成金についての周知、申請取り扱い、推薦事務等を行っております。

また、その他の民間助成金は奈良ボランティアネット (<http://www.nvn.pref.nara.jp/>) の「助成制度」でもご案内しています。詳しくは

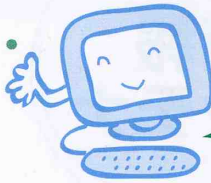
奈良県総合ボランティアセンター (TEL.0744-29-0155) までお問い合わせ下さい。

地域福祉・ボランティア関係 助成金

平成18年7月現在

※ 対象中「VG」= ボランティアグループ、「住参」= 住民参加型在宅福祉サービス提供団体、「社福」= 社会福祉法人、「NPO」= 特定非営利活動法人、「各団体」= 福祉を目的とする団体(法人格不問)、「不問」= 特に定められていない。

実施団体(問い合わせ先)	助成金名	対象	助成内容	募集状況
大和証券福祉財団 (TEL.03-3665-5147)	ボランティア活動助成	ボランティア目的団体(法人格不問) 在宅老人、障害児童、児童問題に 関係する団体	30万円	平成18年8月1日 ～9月15日
大阪ガスグループ福祉財団 (TEL.06-6205-4686)	平成18年度高齢者福祉助成	VG・在宅福祉 サービス事業者	30万円	平成18年7月1日 ～8月31日 社会福祉協議会へ必着
奈良県社会福祉協議会 奈良県中央善意銀行 (TEL.0744-29-0155/ 26-0233)	住民と協働し、社会資源として 地域に福祉的效果を還元できる事業	ボランティアグループ・ 福祉作業所・NPO団体・ 社会福祉施設等	30万円	平成18年度終了
	福祉分野で特に整備や支援が立ち 後れている分野を対象とする事業			
	要援護者への理解を深めるため 地域社会に啓発を促す事業	新規福祉作業所	30万円	通年
[24時間テレビ]チャリティー委員会 (TEL.06-6947-2179・2844)	[24時間テレビ] チャリティー キャンペーン	施設・各団体	・リフト付バス・入浴車 ・スロープ付き軽・普通自動車 ・電動車椅子 ・折り畳み電動車いす ・電動四輪車	平成18年度終了
社会福祉法人奈良県共同募金会 (TEL.0744-29-0173)	赤い羽根共同募金による 住みよい地域づくり支援事業	奈良県内に活動拠点をおく団体 (NPO法人、ボランティアグループ等)	30万円	平成18年8月1日 ～10月31日
社会福祉法人奈良県共同募金会 (TEL.0744-29-0173)	赤い羽根共同募金による 住みよい地域づくり支援事業	奈良県内に活動拠点をおく団体 (NPO法人、ボランティアグループ等)	経費の3/4以内 30万円限度	平成17年度終了
みずほ教育福祉財団(旧はあと記念財団) (TEL.03-3596-4532)	老後を豊かにする ボランティア活動資金	VG・住参(設立2年以上) 隔年で地域別	10万円	平成17年度終了
キリン福祉財団 (TEL.03-5540-3522)	公募助成(旧社会福祉助成)	各団体	50万円	平成17年度終了
財団法人松翁会 (TEL.03-3201-3225)	社会福祉助成事業(事業助成)	法人施設・各団体(例外あり)	80万円	平成18年度終了
独立行政法人福祉医療機構 (TEL.03-3438-0211)	高齢者・障害者福祉基金「地方分助成」 子育て支援基金「地方分助成」 障害者スポーツ支援基金「地方分助成」	法人・各団体	200万円	平成17年度終了
森田記念福祉財団 (TEL.0743-56-9160)	社会福祉助成金	ボランティアグループ・個人	20万円	平成17年度終了
親切会 (TEL.0798-65-9717)	現在福祉的な活動を行っている施設・ 団体・ボランティアグループ支援事業	公の補助金が少なく、 規模の小さい施設・ ボランティアグループ	5万円	平成17年度終了
日本社会福祉弘済会 (TEL.03-3846-2172)	社会福祉助成事業	社会福祉助成事業	50～100万円	平成17年度終了



「ボランティアをはじめたい」「イベント・講座に参加したい」「どんな活動があるのを知りたい!」と思ったら

募集情報 **イベント情報** **団体情報** **施設情報** をご覧ください。

*その他、助成制度・貸館情報が検索できます。

「ボランティアに来てほしい!」「自分たちの活動を多くの人に伝えたい!」と思ったら

奈良県総合ボランティアセンター へお知らせください。

*またはボランティアネット情報登録ページから情報を直接登録することで広くPRが可能です。(会員登録が必要です)

●メールマガジン「Vio」を毎日配信中(火～土)●

電子メールでもボランティアの相談・情報の掲載依頼を受けつけています。メールアドレス/info@nvn.pref.nara.jp

平成18年度 奈良県地域福祉推進セミナー ～地域における つながり の再構築にむけて～

- 開催日時 9月5日(火) 10:00～16:45
- 開催場所 奈良県社会福祉総合センター(橿原市大久保町)
- 基調講演
『活力ある地域の創造に向けて～つながる』ことへの意義を改めて問い直す～
講師/浅野史郎氏(宮城県社会福祉協議会会長)
- 分科会1～3
 - 1.『今こそ福祉施設の力を地域づくりに…
～暮らしの安心をまもる施設と地域の連携を考える～』
 - 2.『LifeからMy Lifeへ
地域とともに育む“私”～障害のある人の地域生活支援を考える～』
 - 3.『ご近所の底力から地域の底力へ
～“つながり”を機軸にした地域の福祉力向上の妙案を考える～』
- 全体会
- 参加対象 市町村社協役員、社会福祉施設役員、民生児童委員、ボランティア活動者、行政職員、教育関係者、その他地域福祉に興味のある方
- 定員 300名
- 参加費 2,000円
- 申込方法 FAXまたはホームページ
※開催日が迫っておりますので、申込希望の場合は下記までお問い合わせをお願いします。
- 連絡先 奈良県社会福祉協議会 地域福祉課 住民活動振興係
担当:野口、岡本
TEL:0744-29-0100
FAX:0744-29-0101
URL: <http://www.nara-shakyo.jp>

『パラマウント・チャレンジ・カヌーin奈良』に参加しませんか?

- 開催日時 9月17日(日)
- 開催場所 吉野川(五條市・栄山寺橋下流の河原)
前日のカヌー運搬・会場設営にも人手が必要です。
- 内容 午前/障害者カヌー講習会
午後/水上運動会
- ★ボランティア同時募集
カヌー介助・艇の運搬・昼食作り・会場設営・受付など。
- 募集対象 障害の有無、カヌー経験の有無一切不問
- 参加費 一般参加者 3,000円(カヌーレンタル料・昼食代・保険料含)
ボランティア 1,000円(昼食代・保険料含)
- 申込方法 「参加申込書」を郵送またはFAX
大会ホームページから参加申込が可能。9月3日(日)締切
- 問合せ先 パラマウントチャレンジカヌー奈良実行委員会
TEL:090-8128-4811(19時～22時)
E-mail: narapara1991@yahoo.co.jp
URL: <http://www.geocities.jp/narapara1991/>

★メッセージ

『パラマウント・チャレンジ・カヌー』とは、障害を持つ人たちがカヌーを通じて最高の自己実現を目指してチャレンジしてほしい、という願いを込めて命名したものです。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

利用者の日中活動の支援をお願いします

- 活動内容 リサイクル活動・園芸・喫茶・療育活動・レクリエーション等の日中活動での利用者の仕事の自立のお手伝い
- 活動日時 平日10時～16時
- 待遇 食事付、交通費あり
- 申込方法 連絡先へ電話もしくはメールで
- 問合せ先 たかとりワークス・やすらぎの丘
高取町観音寺1382番地 担当:木村
TEL:0744-52-1001
E-mail: sf-tunagu@aurora.ocn.ne.jp

パピーウォーカー(子犬飼育ボランティア)募集

- 活動内容 盲導犬候補の子犬を生後50日頃から1才になるまで約1年間育てて頂くボランティア
- 募集対象
 - ・留守が少ない
 - ・常に家の中で犬を飼うことができる
 - ・現在犬を飼っていない
 - ・車を持っている
 - ・ある程度の経済的負担が可能である
- 活動場所 ボランティア自宅
- 申込・問合せ先 社会福祉法人 日本ライトハウス 行動訓練所(盲導犬訓練部)
大阪府南河内郡千早赤阪村東阪1202
担当:角丸(かくまる)
TEL:0721-72-0914
FAX:0721-72-0916
URL: <http://www.lighthouse.or.jp/index2.html>

ボランティア活動に役立つ情報がいっぱい!

ボランティア 情報 アンテナ

募集・イベント情報

英語で奈良を案内しませんか？ 新入部員大募集!!

- 活動内容
月3回程度、外国人観光客に英語で奈良（東大寺、春日大社、ならまち、唐招提寺、法隆寺など）を案内。月1回日曜日に、より良いガイドを目指し、部員が集まって勉強したり、寺社での研修や、他団体の指導を受けます。
- 待遇
ガイド中に支払った交通費は支給されます。
- 募集対象
専・短大・大学生・大学院生
母体である奈良ESS(英会話サークル)に3ヶ月以内に8回以上参加することが条件です。
- 活動場所
猿沢観光案内所内にデスクがあります。
- 申込方法
連絡先へ電話
- 問合せ先
奈良学生ガイド
奈良市登大路町49 猿沢観光案内所内
担当：山本
TEL：0742-26-4753
URL：<http://narastudentguide.jpn.org/>

★メッセージ 奈良ESSは奈良市中部公民館で土曜夕方6時から8時45分に活動しています。こちらには学生だけでなく、社会人、高校生、留学生など、英語に興味のある人ならどなたでも参加できます。

高齢者とのふれあい活動

- 活動内容
デイサービス内での利用者の相手（麻雀、手芸、話相手、唄など）
- 活動日時
火～土曜 午後
- 申込方法
連絡先へ電話
- 問合せ先
デイサービス花の家
橿原市久米町528-1
担当：濱田
TEL：0744-51-1512

難病者を支援する事務所のお手伝い

- 活動内容
簡単な事務処理（メールチェック、電話の対応、その他）
 - 活動日時
週1回程度
 - 申込方法
連絡先へ電話もしくはメールで
 - 問合せ先
NPO法人 奈良難病連
生駒市東松ヶ丘7-15 担当：児玉
- TEL：0743-75-6745
E-mail：nara_nanbyouren@yahoo.co.jp
URL：http://www.geocities.jp/nara_nanbyouren

★メッセージ 事務局の仕事が増えるのに担当者が少ないのが実情で困っています。協力下さる方をお待ちしています。

奈良県の『あたたかい心』を募集します

赤い羽根共同募金運動60年記念 標語・ポスターコンクール作品募集

- 募集テーマ
『地域の福祉 みんなで参加』
「たすけあい」や「ささえあい」、「優しさ」や「ふれあい」のあるまちづくり、また「赤い羽根」「共同募金」の意味を含んだもの
- 応募期間
9月12日(火)まで
- 応募資格
①標語
奈良県内在住・在勤・在学の方ならどなたでも
②ポスター
奈良県内在住・在学の小・中学生、高校生
- 応募方法
応募用紙はホームページからダウンロードできます。
<http://www.nara-akaihane.com>
- 応募先・問い合わせ先
社会福祉法人 奈良県共同募金会
橿原市大久保町320-11(県社会福祉総合センター4F)
TEL：0744-29-0173
FAX：0744-29-0174

ボランティアセンター

こぼれ話

“病は気から”

身体障害や病気で寝たきりの人と話をする活動がしてみたいと来所された方がいました。話をするなかで、自身が難病を克服し、多少の動きにくさはあるものの普通の生活ができるようになっていて入院中出会った人たちが、皆あまりに悲観的であったこと克服した今の自分の姿をみってもらうこと楽観的考えができる自分と話をすることでもっと明るい考え方をってもらうことができるのではないかこの想いに、自分はどうすれば良いのかと探しておられることがわかってきました。話を伺っているだけで、その人の可能性にどきどきしてくほどの生命力を感じました。来所の理由は皆さまさま。話を聞くと最初の質問からは想像できない方向に目的が見つかる場合もあります。どうぞお気軽に、ボランティアセンターへお立寄りください。



社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会 奈良県総合ボランティアセンター

〒634-0061 奈良県橿原市大久保町320-11
奈良県社会福祉総合センター 2階

- TEL : 0744-29-0155 ・ 0744-26-0233
- FAX : 0744-26-0234
- E-mail : info@nvn.pref.nara.jp
- 奈良ボランティアネット
<http://www.nvn.pref.nara.jp>

【開所時間】

- 月～土曜日 / 8:30～17:15

編集後記

今年の夏は異常気象で、暑い日々がまだまだ続いています。
読者の皆さん、体調等崩されていませんか？
今年の梅雨前線は長野や九州など全国各地に豪雨による多くの被害をもたらしました。
被災地では災害ボランティアセンターが設置され、
地元住民や多くのボランティアによる復旧・復興活動が続いています。
一昨年は、阪神淡路大震災10年や台風による被害、新潟中越地震など
災害・防災について改めて考えさせられた年でした。
間もなく台風シーズンを迎えます。地域での災害・防災対策は重要ですが、
大きな被害がでないことを願ってやみません。
by (まえ)